

基調講演

ESD for 2030 : SDGs達成の鍵となる地域の学び合いを促進させるネットワークとは ～沖縄の特性を活かして

及川幸彦（東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員）

会場：文系講義棟215教室

【基調講演の背景と概要】

様々な災害に見舞われながらコロナ禍に直面している今、持続可能な開発目標（SDGs）はそれらと向き合い、克服するための羅針盤として、具体的で自分ごとの活動に踏み出す機会を与えてくれています。持続可能な開発のための教育（ESD）は、地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育であり、SDGs達成の不可欠な実施手段です。基調講演では、ESD/SDGsの教育実践や理論の専門家をお招きし、ESDの最新の国内外の動向、各地の実践事例から学び合うことの大切さ、SDGs達成のための教育/ESD推進に向けたネットワーク形成の重要性についてお話頂き、SDGs実現の成功へのカギを確認します。そして、沖縄の特性を活かしたSDGs達成のための教育/ESD推進やネットワークのあり方を考えるヒントを頂きたいと思えます。持続可能な社会づくりの担い手の育成に関心のある方にとって、目からウロコのお話が満載の時間です！

【講演者紹介】

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員。日本ユネスコ協会連盟理事。地球環境学博士（京都大学）。2002年から気仙沼市を中心に学校教育や教育行政でESDを推進し、ユネスコスクールの普及や国連大学RCEの設立に貢献する。2011年の東日本大震災の際には、被災地の学校及び教育委員会の管理職として学校の危機対応や教育復興に尽力する。日本ユネスコ国内委員会委員、持続可能な開発のための教育円卓会議議長、ESD活動支援センター企画運営委員長等を歴任し、国レベルでのESDの推進施策に携わる。沖縄県においては海洋教育の推進のための拠点づくり、竹富町の海洋教育基本計画（令和2年3月）の策定に関わる。

最近の著作物：

『理論と実践でわかる!SDGs / ESD : 持続可能な社会を目指すユネスコスクールの取組』
(2021年4月)

『ESDの授業づくり～こんな実践が知りたかった!!』
(2021年10月)

